

沙羅の樹文庫だより



昨年12月3日撮影の、皇居の録杏18.4.8 (西村夫・ジョギングの途中で) 文庫のヒメシャラも負けずに新しき若葉を風にゆらしています。

・春の朝・

ロバート・ブラウニング詩

時は春、
日はあした(朝)、
片岡(かたおか)に露みちて、
揚雲雀(あげびばり) なのりいで、
蝸牛(かたつむり) 枝に這ひ、
神、そらに知ろしめす。
すべて世は事も無し。

上田敏訳(『海潮音』より)

文庫あれこれ◆「若いウグイスは、声の良い成鳥から鳴き方を学ぶといひます」だからこそ、「大人が良い声で鳴き続けないといけない」は、内館牧子さん(折々のことば 4.7) ですが、耳に痛い言葉として承りまして、でも内含する意味は置いて、さて、大室の若いウグイスたちは、うまく歌えるようになったかしら? ◆日経新聞をやめて朝日にしてから何年か経ちましたが、週1の読書欄だけは読みたくて土曜版だけとっています。ところが先日、読売新聞の勧誘のおにちゃんに来て、半年とることになってしまいました。どこの生まれ?と聞いたのが間違っていました。なんと伊東市生まれ、シャポテン公園は子ども時代の遊び場、と聞いて応援したくなってしまったのです。せいぜい楽しみたいと思います。◆アニメ映画で『魔女の宅急便』をご存知の方は多いと思います。著者角野栄子さんが国際アンデルセン賞を受賞(上橋菜穂子さんについて)しましたね。(実は原作読んでいないのです)でも、副本含めて21冊も在庫していましたよ。大人も読める本2冊、今回いれました。◆4.7の新聞(2紙)のコラム(他紙面)は、5日に亡くなったアニメ作家・高畑勲さんについてでした。制作者なども知らずに子どもと観ていた「ハイジ」「フランダースの犬」「母をたずねて三千里」などにかわり、映画「火垂るの墓」「かくやひめ」を作り、宮崎駿とともにアニメを芸術としてまた、映画界でたくさん観客動員できるジャンルとして確立したと。(「蛍飛ぶ前に火垂るとなって遊び」朝日川柳 4.7) ◆去る3日、春休みで台湾から戻っている孫息子2人に三女の娘2人と、シャンシャンに会いに行ってきました。たった数分、寝ているシャンシャンを見るための整理券をもらうのに、ひと苦労、ひと騒動ではありましたが、ともかくもパパ、ママババ、シャンシャンを見ることができ、私は、自分の子どもたちを連れて以来、上野動物園は40数年ぶり。孫も一人一人見たい動物を見て、桜の散る広場でゆっくり休憩もしてのどかな一日でした。(拙い写真は別紙) ◆さて、今年のフレッシュマンは? 読書家 S ちゃん、希望大学に合格して遠い北海道へ。楽しい青春を過ごせますよう。◆新緑萌え出る4月、心新たにこの春を心に刻みましょう! ◆今日(13日)はピッカピカの晴天。でも週末は下り坂? 種々、本入りましたよ!(西村)

★開館日は通常は
第3日曜と前日の土曜です★

2018

◆5月は延長 18日(土)~21日(月)の4日間

子どものための「若葉のころのおはなし会」は
5月6日(GW最後の日)開催です。

時間は午後1:00~3:00まで、

日本中だけでなくアメリカでも有名な

藤田浩子おばさんによる

★スペシャルイベントタイム★

〈子どものためのおはなしと?色々スペシャル〉

なにがとびだすか、おたのしみおたのしみ!

文庫の日とは違いますので、お間違いないよう

※おとなのための『若葉のころのおはなし会』は、
20日(日曜)午後3:15からです。

◆6月は通常 16日(土)~17日(日)両日

◆7月は通常 14日(土)~15日(日)両日

★夏のイベント: 海の日のおはなし会

5日(日)17:00~伊豆高原駅会場

♥開館記念子どものためのおはなし会

16日(祝)10:30~沙羅の樹文庫で開催

※前号で夏のイベントの日を間違えました。
お詫びして訂正します。

◆8月は延長 18日(土)~21日(月)の4日間

◆9月は通常 15日(土)~16日(日)両日



<http://www.saranokibunko.com>

2018年3月に読んだ本の感想

森・林・浴

『パテレンの世紀』 渡辺 京二著 新潮社刊
2017年11月 初版

文句なしに立派な本。この著者は私が予てから尊敬している熊本在の人物、この本も内容がしっかりして、まさに名著。

もともと月刊雑誌「選択」に10年位連載されていたものを1冊の本にまとめたものだが、今時月刊誌に10年以上も連載されるという今と自分が稀ではないか。私は「選択」という雑誌をもう15年以上読んできたので、しっかりと事実を押さえて過不足なくまとめた連載だとは思っていたが、1冊の本になって見るとやはり立派なものである。

石牟礼道子著『完本 春の城』の主題である島原・天草の民衆蜂起については、第24章・25章・26章に冷静な解説があり、石牟礼さんの『完本 春の城』と合わせて読めばバランスの取れた理解ができると思う。

『完本 春の城』 石牟礼 道子著 藤原書店刊
2017年11月第2版

や—この本には参りました。まず899頁もあって、ずっしりと重く、持って読むのも大変。

水俣の公害問題に自ら先頭になって公害被害者のために奮闘した著者が、今度は自分の生まれ故郷でもある島原(水俣にごく近い)の民衆一揆の前後左右を含めてすべてを書ききった凄いな本で、読みぬくまでにヘトヘトになります。本のタイトルが『完本 春の城』となっているが、なるほどここまで書けば、「完本」と言ってもよい。構成は、まず「草の道」があり、これは著者が小説『春の城』に取り掛かる前に、舞台になる島原半島を中心とする地域の実査—取材・確認の旅行の記録である。中核の『春の城』が小説部分で613頁、「草の道」の調査を十分に生に生かした長い創作部分。その次に参考文献や著者

の感想、著者と編集者との感想記録、著者と友人との対話、などが70頁入って、さらに4人の作家・研究者による「解説」、最後に関連年表もついています。必要な箇所には、沢山の地図が入り、中心の「春の城」の初めには地図のほか、主要な登場人物の一覧表と相關図も入れてあります。小説を読み通すには、地図を見たり、人物一覧を見たり大変です。

解説で田中優子が言っているように、この本には「日本人が忘れてはならない三つの事柄が込められている。第一は島原天草一揆という大きな歴史的転換、第二はこの地方の人々が「もたえ神」とよぶ深い魂。そして近代日本に矢のように突き刺さって決して抜けることのない水俣事件。

「草の道」では2か所が白い紙でなく、薄黒い紙に書かれた何ページかの箇所もあり、そういう箇所は特に綿密に読まないといけないうかもしれないが、老人の弱った目には読みづらい箇所となった。あちこち体の不具合を抱えていたらしい著者の凄いなエネルギーには感嘆するほかない。最近亡くなられたが、ここまで書けばもう思い残すこともなかったのでは。

『中山千夏 参議院全国区 活動報告—80年代
タレント議員から162万人へ』

中山千夏さんとは何年か前に偶然赤沢のコミセンでお会いして少し立ち話をしました。彼女がかかわっている「原子力いんかい@伊東」の関係だったので、『蜜蜂の羽音』とかいう反原発を主張して作られた映画の試写会に見に行ったら、映画の後で製作者の女性と立ち話をさせていましたので、初見ながら数分雑談をしました。伊東市にもう住み着いて長いようで、富戸海岸などでのスクーバダイビング記録は1000回以上、ちょっとした記録のもののように。今まで全く知らなかったのですが、彼女は1977年に発足した文化人中心に結成された革新自由連合に参加、1980年の参議院選挙に誘われて立候補し、参院

全国区第5位で162万票を得て当選、一期6年間、政治家として活躍したが1986年の次の選挙で次点で落選して政治家は引退したということです。(彼女を担いで政界に誘ったのは五木寛之などのいわゆる文化人だが、五木が肝心の選挙の時さっさと外遊に出かけたなど無責任な行動を取ったということなどには驚いた。) 今彼女は「原子力いんかい@伊東」という反原発の組織をつくって名乗りを上げて活動しているという。1948年生まれだから、8歳で芸能界にデビューした彼女ももう70歳、今からまだまだ活躍する元気がありそうな人ですね。

西村夫うまいもの探しのちょい旅

18. 3. 29~31 八戸 居酒屋巡り 8軒(ぼんや、しおさい、美味etc)行って、取り立てて言えば、なまこ、いか(九州呼子の方が極上)。旬のふき美味、めばるの煮つけ good。 ※市役所に垂れ幕!!「ようこそ種差海岸 三陸復興国立公園—北の玄関口」
18. 4. 5 清水・興津 数年前、由比でさくらえびをを店を探して辿り着けず、で、今回、生は時期早で、冷凍の桜えびのてんぷらを。うまかった!!



種差海岸・白岩(左)・陸奥白浜(右) 八戸みろく横丁(左下) (右下)清水・興津「もとよし」マスター

18年4月に入った子どもの本

絵本

『チトくんとにぎやかないちば』(アティヌーク文
アンジェラ・ブルックスバンク絵 さくまゆみこ訳
徳間書店 2018)ID12704
『パパのぼり』(きくちちき作 文 溪堂
2017)ID12708
『きみもこねこなの?』(エズラ・ジャック・キーツ
作絵 当麻ゆか訳 徳間書店) ID12709
『マルコとババードウン症のあるむすことほくの
スケッチブック』(グスティ作 宇野和美訳 偕成
社 2018)ID12710※心を大事に読みましょう。
『あさがくるまえに』(ジョイス・シドマン文 ハ
ス・クロムス絵 さくまゆみこ訳 岩波書店
2017)ID12717
『あしたがすき—釜石「こすもす公園」きぼうの壁
画ものがたり』(指田和文 阿部恭子絵 ポプラ社
2016)ID12705※東日本大震災から満7年…。

よみもの

『ランプの精 1〜3』(P. B. カー作 小林浩子
訳 集英社)ID12701~12703
『トンネルの森 1945』(角野栄子作 角川書店)
ID12706※今年の国際アンデルセン賞受賞者の
自伝的物語 『角野栄子の毎日いろいろ』(角野栄
子著 角川書店) ID12707※大人向け
『ヒトラーと暮らした少年』(ジョン・ポイン著 原
田勝訳 あすなろ書房 2018)ID12718※同著者
『縞模様のパジャマの少年』の姉妹編。
『カラヴァー深紅色の少女』(ステファニー・ガー
バー著 西本かおる訳 キノブックス
2017)ID12719※今年の翻訳部門本屋大賞受賞

入園、入学、進学した文庫のみんなへ——
みんなは、詩を詠む?書く?
やってみてごらん、たのしいかも。
いくつか、おともだちの詩を紹介してみますね。
すなおな心がまっすぐ、すてきだね~~~~~

開く

目を開く
カーテンを開く
「おはよう」と口を開く
朝食の時
れいぞうこを開く
「行ってきます」と
ドアを開く
一日が
新しい本を開くように
始まってゆく
(東京都・小4 近岡沙織さん)

大人のおふろ

今日は42 どのおふろ
大人はハァーと言うけれど
わたしはおしりがアチチチチ
大人は10分入っているけれど
わたしは30 びょうでギズアッ
大人はおふろあがりにひえたビール
わたしはぎゅうにゅういっきのみ
(茨城県・小3 鈴木まゆさん)

雲

白い大きな雲だね
雲を食べたら青空になるね
青空を食べたら夕焼けになるね
夕焼けを食べたら夜になるね
(神奈川県・年中 渋谷将生くん)

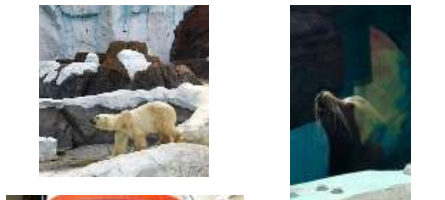
外は気持ちがいいね

ぼくは 外に出ました
外は 気持ちがいいね
外は 青い空があって
外は 雲があって
外は 木があって
外は 花がいっぱいあって
外は 自然があります
(広島県・小4 青野文麻呂くん)
——読売新聞「こどもの詩」から——

シャンシャンと上野動物園



左上: シャンシャンと下: ママ。 右上: パパパンダ
下左: シロクマ 下右: 食べ物おだるアザラシ



園内モノレール(左)&
フラミンゴ(右)

水中のワニ(右)あたま

18年4月に入ったおとなの本

フィクション

『青空と逃げる』(辻村深月著 中央公論新社
2018)ID17426
『青くて痛くて脆い』(住野よる著 角川書店
2018) ID17427
『長く高い壁』(浅田次郎著 角川書店 2018)
ID17428
『私はあなたの記憶のなかに』(角田光代著 小学
館 2018) ID17429
『それまでの明日』(原察著 早川書房 2018)
ID17430
『雲上雲下』(朝井まかて著 徳間書店 2018)
ID17433
『比ぶ者なき』(馳星周著 中央公論新社 2018)
ID17434※request
『庭』(小山田浩子著 新潮社 2018)ID17454
『消えたベラスケス』(ローラ・カミング著 五十嵐
加奈子訳 柏書房 2018) ID17440
『海峡を渡る幽霊—李昂短編集』(李昂著 藤井省
三訳 白水社 2018) ID17439
『オリジン 上・下』(ダン・ブラウン著
KADOKAWA 2018) ID17431~2
『わすれられた花園 上・下』(ケイト・モートン著
青木純子訳 東京創元社) ID17441~2
『秘密 上・下』(ケイト・モートン著 青木純子訳
東京創元社) ID17443~4

※上記 2 件は少し前に入庫した同著者モートンの初
期の作品。これらもイギリスコンウォールを舞台の胸
躍るサスペンス風味の読み応えある作品。

『主よ 一羽の鳩のために—須賀敦子詩集』(須賀敦
子著 河出書房新社 2018) ID17435※request
『詩集 見えない涙』(若松英輔著 亜紀書房
2018) ID17436

『潜伏キリシタンは何を信じていたのか』(宮崎賢
太郎著 KADOKAWA 2018) ID17437

『創造&老年—横尾忠則と 9 人の生涯現役クリエ
ーターによる対談集』(横尾忠則ほか著 SB クリエ
イティブ 2018) ID17438

『いろいろなあつた人へ (大人の流儀シリーズ)』(伊
集院静著 講談社 2018)ID17452

『湯川秀樹—詩と科学』(湯川秀樹著 平凡社
2017)ID17450 (寺田寅彦著 平凡社 8
2017)ID17451

『南方熊楠—一人魚の話』(南方熊楠著 平凡社
2017)ID17453※卓越した人の心を読み返したく
て…。

文庫

『西南戦役伝説』(石牟礼道子著 講談社文芸文庫
2018) ID17445※request

『氷の娘』(レーナ・レトライネン著 古市真由美
訳 創元社推理文庫) ID17446

『大衆への反逆』(西部邁著 文春学藝ライブラリ
ー) ID17447※request

『ラストラン』(角野栄子著 角川文庫 2014)
ID17448※今回、子どもの本に入れた『トンネル
の森 1945』に続く物語?

文庫だより No.140-2

新書

『日本軍兵士—アジア、太平洋戦争の現実』(吉田裕
著 中公新書 2017)ID17455

『極上の孤独』(下重暁子著 幻冬舎新書 2018)
ID17449

文学賞・・・

数日前、18年度本屋大賞が発表になりました。今回の
文学大賞は、『かがみの孤城』(辻村深月著 ポプラ
社)ID17095(2位以下10位まで文庫になかったのは、
3冊だけでした)。本屋大賞とは、本屋の店員が売りたい
本(もちろんおススメ本)なのだそうです。翻訳大賞は
『カラヴァー深紅色の少女』(ステファニー・ガー
バー著 西本かおる訳 キノブックス)で、どちらかと言
えば両方ともYA(10代)向きのようです。

ちなみに、日本の文学賞はどのくらいあるかな?とちよ
い調べてみたら、あるわあるわ、簡単に空きスペ
ースを埋める類のものでなく...。これから、気が向いた
ときに文庫にある本を中心に文学賞をチェックしよう
と思います。ということで、
今回は今年の本屋大賞10位まで

- ②『盤上の向日葵』ID17214
- ③『屍人荘の殺人』ID17399
- ④『たゆたえども沈まず』
ID17253⑤『AX アックス』
(伊坂幸太郎著 KADOKAWA)
- ⑥『囁く絵の牙』(塩田武士著
KADOKAWA)
- ⑦『星の子』ID17097
- ⑧『崩れる脳を抱きしめて』
(知念実希人著 実業の日本社)
- ⑨『百貨の魔法』ID17329
- ⑩『キラキラ共和国』ID17357



庭に群生したシャガ

※4月の文庫の庭は、未だにクリスマスローズ真盛り、
シャクヤクの赤や、木の花・ハナミズキ、大でまり、マ
ンサクほか、河津桜にはサクラソボが、ヒメジャラの
若葉が風にぞよぞよ・・・。いい季節です。